

金沢市産学連携事業 運営委員会通信

No. 11

令和7年3月発行

金沢市では、金沢市産学連携事業運営委員会を設置し、ものづくり産業の振興と発展のため、地元企業と大学等の高等教育機関との連携による新製品開発、新技術開発、人材育成を推進しています。



環境分野での産学連携への期待

金沢市ものづくりコーディネーター

池本 良子

昨年から金沢市ものづくりコーディネーターを拝命しております。金沢大学在職中は、「環境工学」を専門とし、土木系の地球社会基盤学系に所属しておりました。「環境工学」は、私が始めた当初は比較的新しい分野であり、もともとは主に水道や下水道、廃棄物処理を対象としていたため「衛生工学」と呼ばれていましたが、その後、環境を保全する工学技術として様々な分野に広がっていきました。しかし、基本的には公共事業を対象としていたため、この分野での産学連携というと、環境省や国交省、NEDOのようなある程度大きな予算が必要なものであり、多くの中小企業が様々なアイデアを持って相談にいられましたが、実用化にはなかなか高いハードルがありました。これは、世間一般では下水道やごみ処理のイメージが強く、そのためにかける費用は最小限で、基準をクリアすればよいという意識があったためで、私はいつも、環境ビジネスは儲けにならないのではないかと感じておりました。

ところが、近年はSDGsが当たり前となり、環境配慮をしない企業は生き残れない時代になってきています。その結果、多くの企業が環境ビジネスにも注目するようになりました。私が研究を続けているバイオマスメタン発酵(汚泥や生ごみ、家畜糞尿などの廃棄物系のバイオマスを、メタンガスを主体とするバイオガスに変換する技術)についても、近年、多くのプラントが建設されるようになりました。金沢市には、ニッチな技術を持った企業が多く存在しており、環境分野への進出はビジネスチャンスにつながる可能性があると思っています。しかし、環境ビジネスは、最新技術を駆使して利益だけを優先しては成立しません。俯瞰的な視野で地球環境を見つめ、その保全に取り組む強い意志が必要だと感じています。そのためには、産学連携で大学の教員と意見交換をし、知識を得ながら技術開発を進めていくことに、大きなメリットがあると思います。また、若い先生方にとっても、大型予算獲得だけでなく、地元企業との連携が視野を広げることにつながると思います。金沢市産学連携事業運営委員会の活動を通じて、環境分野での産学連携が進むことを期待します。

令和6年度の取り組み

先端ものづくり技術交流セミナー

オンライン配信や対面での開催により、さまざまな分野における最新技術の動向を紹介しました。

第1回

最先端の最尖端
先進的ロボットハンドの開発

ロボットにおいて最も重要なハードウェアの1つであるロボットハンドに関する技術を紹介いただくとともに、金沢大学が取り組んでいる先進的ロボットハンド機構に関して講演いただきました。

日時 令和6年10月24日(木) 14:00～15:30
講師 金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 助教
イードル株式会社 外部顧問(技術アドバイザー) 西村 斉寛 氏

参加者数 42名

参加者アンケートより

- ・モーターを最小限にするロボットハンド内の機構が参考になりました。開発コンセプトや、こういう問題があるからこういった動作をするなど、具体例があり分かりやすかったです。
- ・人材や人手の不足する分野で、多様な活用が期待できると思いました。

第2回

地域産学連携で進める
人材育成・技術開発のご紹介

金沢工業大学が企業と連携して人材を育成するコーオペ教育とその成果について解説いただくとともに、デジタル技術やロボット技術を活用した農業DXに関する取り組み、現場のニーズに答える技術開発や価値提案の一例などを紹介いただきました。

また、参加者の皆さままで情報交換会を実施し、交流を図りました。

日時 令和6年12月5日(木) 14:00～16:30
講師 金沢工業大学 常任理事 産学連携局長 河合 儀昌 氏
北菱電興株式会社 取締役 酒元 一幸 氏
金沢工業大学 工学部ロボティクス学科 教授 河合 宏之 氏
北菱電興株式会社 事業企画開発部
テクニカルエキスパート 松田 夕貴 氏
金沢工業大学 工学部ロボティクス学科 教授 鈴木 亮一 氏

参加者数 18名

参加者アンケートより

- ・大学と企業が理想的な連携をされている事例を知り、他の県内企業にも追随していただきたいと感じました。
- ・産学連携に取り組む姿勢と、思いを貫くことの大切さを学びました。

第3回

人材不足時代におけるDXの進め方
～能登半島地震からの教訓と
AI活用事例～

北陸先端科学技術大学院大学が実施している企業や自治体のデジタル化のための人材育成サポート活動を紹介いただきました。また、国内の技術・政策動向に加え、クラウドを活用したDX、AIを利用した事例や能登半島地震で有効活用されたDX事例などを解説いただきました。

日時 令和7年1月29日(水) 14:00～16:30
講師 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST)
先端科学技術研究科
トランスフォーマティブ知識経営研究領域 教授 島田 淳一 氏
公益財団法人ほくりくみらい基金 理事 野水 克也 氏
株式会社石川コンピュータ・センター
クラウドビジネス本部 スペシャリスト 中屋 健二 氏
創屋株式会社 取締役 松村 幸村 氏

参加者数 41名

参加者アンケートより


- ・生成AIを活用したツールの進化が理解でき、大変参考になりました。
- ・導入事例の紹介が弊社のAI導入を進める着想点になりそうです。

デジタル化推進セミナー

市内ものづくり企業のデジタル化を後押しするためのセミナーを開催しました。

■ゲームで学ぶ 社内の情報セキュリティ対応！

ゲーム教育教材を用いて、組織内部で発生したマルウェア感染端末を封じ込める初動対応を体験しました。



日時 令和6年11月14日(木) 13:30～16:30
講師 石川工業高等専門学校 電子情報工学科 小村 良太郎 氏
株式会社ラック 新規事業開発部 主席研究員 長谷川 長一 氏
株式会社日立製作所 情報セキュリティリスク統括本部 主任技師 青木 翔 氏

参加者数 15名

参加者アンケートより

- ・セキュリティインシデントが起こったときの調査について、ゲーム形式で学べたことがよかったです。
- ・ゲームはセキュリティ意識を高めるチーム醸成にいいと思いましたが、セキュリティの学びとしてはゲーム後の最近の動向などの解説の方がためになりました。

金沢美大デザイン講座

ものづくりへのデザイン活用を推進するための入門セミナーと実践的なワークショップのデザイン開発体験塾を開催しました。

デザイン入門セミナー

■「デザインでつなぐ」
ーブランドと生活者、過去と未来ー

金沢美術工芸大学協賛にて、サントリーBOSSのパッケージデザイン開発秘話からその後のブランディングについて、また能登復興応援酒「つなぐ石川の酒」開発裏話をお話いただきました。

日時 令和6年10月1日(火) 17:40～19:00
講師 金沢美術工芸大学 客員教授
石浦 弘幸 氏
ゲスト 石川県酒造組合連合会 会長
車多 一成 氏

参加者数 24名

参加者アンケートより

- ・パッケージデザインについての講演ということでしたが、商品開発という面で聞いても大変参考になる内容でした。
- ・テーマである「デザインでつなぐ」がよく理解できる素晴らしい講演でした。2コマに分けてもいいくらいの内容の濃いもので大変満足できました。

デザイン開発体験塾

■美大生と一緒に学べる
「デザイン開発体験塾」
テーマ:日本酒の Re デザイン


美大生と共に、Z世代の視点から日本酒のパッケージデザインを制作し、新しい日本酒デザインの可能性について、議論を行いました。

日時 令和6年10月8日～11月5日の毎週火曜日(全5日) 各回とも13:30～16:30
講師 金沢美術工芸大学 ホリスティックデザイン専攻 教授
畝野 裕司 氏
金沢美術工芸大学 ホリスティックデザイン専攻 講師
高田 大資 氏

参加者数 2名

参加者アンケートより

- ・新規事業への企画などを行う際に、デザインをお願いする立場として、どういったことが必要なのかなどが分かり、とても有意義でした。
- ・今後もこのようなデザインに触れる、デザインとは何かが分かる講座は続けてほしいです。



マーケティングセミナー

製品開発や販売を行うためのマーケティングについてのセミナーを開催しました。

■ファンをつくる！Web営業、ブランディング、マーケティングの基礎

Webマーケティングを通じた営業やブランディング、ファンづくりの基礎知識や実践方法について解説いただくとともに、中小零細企業を対象としたWebマーケティング、営業力強化、ブランディングを得意分野とするコンサルタントから、先進的な取り組み事例や具体的な活用方法を紹介いただきました。

日時 令和7年2月13日(木) 14:00～16:30
講師 株式会社サ・ブ・ネ 代表取締役 柳澤 智生 氏
株式会社 Ludius 代表取締役 平本 祐資 氏
金沢学院大学 経済学部 経営学科 教授 大野 尚弘 氏

参加者数 136名

参加者アンケートより

- ・SNS運用を始めとしたWebマーケティングが必要になった背景を再考する機会になりました。
- ・仕事柄、中小企業のDX化は避けては通れないので参考になりました。Webマーケティングの話も最近のトレンドを含めた説明だったのでわかりやすかったです。

金沢市における産学連携によるものづくり支援

■金沢市新産業成長ビジョンの実践（令和5年度～令和9年度）

社会経済情勢の変化や日々、技術革新が進む最先端技術、地域経済における社会課題を踏まえ、世界に誇る文化をはじめとした金沢の個性を生かし、高い付加価値を生み出す新産業の成長・発展に向けて、本物の価値を高め、創造・変革していくまちをめざし、産学官金の連携のもと、新産業成長ビジョンの様々な施策推進に取り組めます。

- 市内中小企業のDX化に関して、身近に相談できる窓口を開設
（事業所等へ相談員を派遣、DX関連セミナーの開催）
- ⑨●大学等と連携し、社会課題の解決をテーマに最先端デジタル技術を活用した新産業の創出につながる事業を実施
- 若者や女性の起業を重点的に支援
- 金沢未来のまち創造館における事業活動を推進
 - ◎スタートアップ・新ビジネスの創出
 - ◎子供の独創力の育成 ◎食の価値の創造
 - ◎海外で活動するスタートアップ、子供たち、料理人との交流
 - ◎入居者や地域住民との世代間を超えた交流
- ⑩●石川県情報システム工業会と連携し、小学生から大学生までを対象としたデジタル人材を育成する活動を推進
- ⑨●中高生を対象に社会課題を解決するアプリ等の開発やビジネス化に向けたセミナーを開催
 - ・小学生を対象とした「金沢ロボ活」、中高生を対象とした「金沢IT部活」を開催
 - ・IT部活の卒部生や大学生が、IT企業や大学等と連携する
共創プロジェクト「金沢IT部活アカデミーベンチャー」を実施
- ドローンビジネスにつながる人材育成に向けて、中高生向けワークショップを開催



次世代ICT人材の育成

担当：金沢市 経済局 産業政策課 TEL：076-220-2204 FAX：076-260-7191
E-mail：sansei@city.kanazawa.lg.jp

■新製品開発・改良促進事業

企業が新製品・新技術・新システム等の開発を行う経費の一部を助成します。

新製品等の開発事業については、産学連携コース、単独企業コース、企業連携コースの3種類の補助メニューがあります。また、既存製品を改良する場合の補助もあります。

■ものづくりサポートアドバイザー派遣事業

製品開発や生産効率の向上、販路開拓など、各企業が直面する様々な課題に応じて、デザイン、特許、マーケティングなどの分野に精通した専門家を派遣します。

担当：金沢市 経済局 商工労働課 TEL：076-220-2205 FAX：076-260-7191
E-mail：syoukou@city.kanazawa.lg.jp

■金沢市産学連携事業運営委員会

事務局

○金沢市経済局商工労働課 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号 TEL 076-220-2205 FAX 076-260-7191